

## 進捗状況の概要（1ページ以内）

計画調書に基づき、令和5年度の実施計画に沿って、以下の通り事業を推進した。

## 1. 事業計画実施体制

令和5年度も、学長を中心とした教職協働による組織的な実施体制で事業を推進した。全学的な教学マネジメント推進組織である教育開発機構（以下機構）、教育開発室、「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラム運営委員会（以下運営委員会）との連携により事業を推進した。運営委員会については、今後の全学展開を見据えて、各学部・各学科より選出した教員が運営委員会に参加する体制を整えている。また、本事業プログラムの適正な実施のために、自己点検・評価を行い、それに対する東京都市大学質保証外部評価委員会による外部評価の実施や、産業界等、学外の有識者からなるアドバイザリー委員会の開催により、事業計画の進捗状況について、指導・助言等を受けることで、本事業プログラム改善のためのPDCAを適切に回し、採択事業計画の適正な実施に努めた結果、概ね滞りなく事業計画を実施することができた。なお、令和6年度より、従来指摘されていた学修アドバイザーの負担減、増強や育成のために、新たに非常勤講師2名を採用する予定となっている。

## 2. 到達目標と事業内容

三つの方針の再確認や、授業科目の新設等、プログラムが目指す「5つの力」（ひらめきづくり、ことづくり、ものづくり、ひとづくり、AI・ビッグデータ・数理データサイエンス）に関する教育課程の編成として、新たに、「ひらめきづくり(5)」、「ことづくり(4)」、「ことづくり(5)」、「ひとづくり(3)」、「ひとづくり(4)」、「ひとづくり(5)」、等を開講した。また、理工学部の「くらしづくり」科目群を整備した。成績評価については、令和5年度より、ディプロマサプリメントシステムに実装している。その他、到達目標の検証のため、令和3年度～令和5年度プログラム参加学生について、プログラム非参加学生との「SD PBL科目」の平均GPAの比較、授業時間外学習時間の比較等を行った。

## 3. 年度別の計画

人材任用、教育課程の編成、シンポジウム実施、特設Webサイトや機構発行のNews Letter等を通じた学内外への情報発信により、本事業プログラムの更なる理解の促進に努めた。学外有識者の外部評価による本事業プログラムの改善取組を継続した。また、採択時や中間評価結果に付された留意事項、現地視察報告書、POフォローアップ報告書の指摘事項に対しても改善取組を継続し、適切に対応している。全学展開に向けた議論を運営委員会にて進めたが、理工学部以外では、慎重に導入を検討したいという意見が多かったことから、申請当初の予定通り、令和6年度は理工学部で全学科展開し、令和7年度から全学部で展開することとした。

## 4. プログラムを通じて構築される全学的なマネジメント改革への対応状況

機構を中心に、機構内の教育開発室と運営委員会との連携により、教職協働で組織的に改革を推進するための全学的な管理運営体制を構築している。例えば、学部横断的な統合的な学びである3年次必修科目「SD PBL(3)」の授業については、機構の関係者を中心に、「SD PBLデザイン研究会」を開き、授業デザインを検討しているが、本事業プログラムのコーディネーターもそこに参加し、意見交換を行うことで、前年度の内容を改善し、令和5年度の授業に反映させる等、全学横断的な改革を推進している。また、運営委員会構成員の拡充等により、事業計画の管理運営体制の機能は強化されており、全学展開に向け、関係委員会等との連携や各学部・各学科の理解と協力も促進しており、本事業プログラムを通じて、大学教育の改革をするための教学マネジメントは機能しているものと考えている。